

平成 3 0 年 度

I 国 語

(9 時 00 分 ～ 9 時 50 分)

注 意

- 問題用紙は， 6 問で12ページです。
- 解答用紙は**問題用紙の中**にあります。
- 答えはすべて，解答用紙の所定の欄に，文，文字などで答えるもののほかは，ア，イ，…などの符号で記入しなさい。

福島県磐城第一高等学校

平成三十年度 I 国 語

一 次の問いに答えなさい。

1 次の の文章は、転校生の水木さんが行った自己紹介です。これを読んで、水木さんの名前のカタカナ部分を漢字にして楷書^{かいしよ}で書きなさい。

私の名前は水木キタロウといいます。そう聞くと漫画の『ゲゲの鬼太郎』を思い浮かべる人がありますが、字は違います。私の場合、キタロウの「キ」は「キドアイラク」の「キ」という字です。「タ」は「タショウ」の「タ」、「ロウ」は「ロウドク」の「ロウ」です。「よろこびがおおく、ほがらかな子になるように」とつけられました。どうぞよろしく願います。

2 次の文を、意味を変えることなく「生徒は」を主語にして書き直すとうなりますか。主語・述語の関係に気をつけて「生徒は」に続けて書きなさい。

・終了の合図と同時に、生徒の動きがいつせいに止まった。

←

・生徒は、

3 熟語の組み立てが「比較」とは異なるものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 創造 イ 縮小 ウ 詳細 エ 因果

4 中学三年生の青山さんは、学級でスピーチをするために、発表メモをつくりました。青山さんはスピーチの内容以外にも話すときに気をつけることを（ ）内に書くようにしました。実際に行ったスピーチの内容から判断して、A・Bにあてはまる内容として最も適当なものを、後のア～カから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

青山さんの発表メモ

（興味を引く出だし 笑顔）
鳥取県が好き（主張を先に言う）

理由（A）

1 自然が豊か

2 食べ物や水がおいしい

3 人のつながりがある

（B）

人が生活するうえでの基本

鳥取県が好き（少し声を大きくして主張を繰り返して終わる）

実際に行ったスピーチ

皆さんは、タレントのイモトさんを知っていますか。彼女は鳥取県出身であることをアピールしながら、がんばっています。きつと故郷の鳥取県が大好きなのだと思います。

私もこの鳥取県が大好きです。その理由は三つあります。

第一に自然が豊かだということです。全国的にも有名な鳥取砂丘や大山をはじめ、私たちは豊かな自然に囲まれて暮らしています。

第二に食べ物や水がおいしいということです。特産の二十世紀梨などの農産物や松葉ガニなどの海産物は、自然の恵みであると同時に、鳥取県の人々の努力や工夫の賜物であると言えるでしょう。

第三には人と人とのつながりがあるということです。(中略)これらはいずれも人が生活していくうえで基本となる大切なものだとは考えています。自然・食べ物・人のつながりが、とても豊かな鳥取県が私は大好きです。

ア 統計的な数値を示し、わかりやすく説明する
イ 時々冗談を交え、聞き手の興味をひきつける
ウ 説得力を増すため、あえて反対意見を述べる
エ 内容を短い言葉で言ってから、具体例を示す
オ 友人の考えを取り入れ、比較しながら述べる
カ はじめに理由の数を示し、見通しを持たせる

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二〇一一年の梅雨明けは早かった。投げやりな雨の日が①続くと思っていたら、突然猛暑になった。それも②日差しが違う。

例年だと夏の始まりには遠慮がある。どのくらい照つたらよいのだろうかとの躊躇がお日様に感じられる。それまで雨雲のカーテンの向こうでぬくぬくしていたところを、突然人目に曝されてしまった戸惑いがある。うぶなのだ。だから梅雨前線に取り残されてしまったヨウリヨウの悪い湿った空気の残党を炙って追いやることができない。てかりだした椿の葉の上でそれが③一息ついているのを見てみぬ振りする気の好きがある。

それが今年はどうだったろう。貴船の水まつりが終わった途端、挨拶なしで真夏になった。陽光は叩きつけるように降りソソぐ、正に怒濤の勢いである。

節電は誰もが心がけていた。出来るだけ辛抱した。我が家などあまりエアコンとお付き合いがない方と思うが、それでもいつも以上に注意した。茶の湯では季節を遮断しない。どのように手強い一日を迎えても、それとA道を探す。確かに猛暑だとそこから離れたくなる。しかし、茶室にはエアコンはない。扇風機もない。涼しくするのは難しい。但し、涼しく感じあう工夫がある。その工夫することが暑さとの折り合いをつける手立てなのだ。

たとえば七月や八月だと、細い水指の蓋代わりに梶の葉や蓮の葉などを

用いる。※点前がある。葉の上には水滴を打つ。よく見ると席中に入り込む昼の日差しが水滴に閉じ込められ、ぶるぶる震えている。一瞬、暑さが遠のく。

工夫、と記してきたが、それは茶の湯の世界だけのものではない。誰でも出来るし、どこにでもある。面倒くさがらなければ、だが。

スイカを思い浮かべていたきたい。夏の日につき物のお八つだった。それがいつの間にか主役の座から下り、アイスクリームなどに取って代わられた。確かに菓子類だと買うのは簡単で、始末も手軽だ。スイカはそうはいかない。冷やして切り分けなくては口に入らない。切り分けてあればそれでよいかというとそうでもない。スーパなどで切り売りしてあるものからは既に涼味が失せている。

冷やした丸ごとのスイカを目の前に置く。なんとなくその頭を叩き、それから包丁の刃を差し込む。途中までいったらそこで割るように分ける。そのときパカッと音が立つ。そうして中から冷気が逃げてくる。それが顔をかすめるとき、瞬く間だが夏の昼下がりから刺々しさが消える。冷やし、切り分ける、という手間はかかるが、それだけの価値がある。

何でも手に入る世の中になった。だから私たちは贅沢になり我儘になった。心も体も動かさず、依頼ばかりするのに慣れきった己を戒め、たまには手の届くものでやりくりしてみても如何だろう。工夫することによって得られる満足感は、リュウツウに乗って手元に届けられるものとは一味違う。そう私は思っている。

(千宗室「工夫してみる」による。一部改変)

※ 点前：茶の湯の所作・作法。

1 傍線部 a・c のカタカナを漢字に直しなさい。

2 傍線部①「統」を楷書で書いた場合の総画数と、行書の漢字を楷書で書いた場合の総画数が同じものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 階 イ 極 ウ 蒸 エ 複

3 傍線部②「日差しが違う」とあるが、その様子を表現している一文を、文中から抜き出し、初めの三字を答えなさい。

4 傍線部③「一息ついている」とあるが、「一息ついている」のは何か。文中から十字以内で抜き出しなさい。

5 文中の A にあてはまる言葉を、文中から十字以内で抜き出しなさい。

傍線部④「暑さが遠のく」、⑤「刺々しさが消える」とあるが、この二つの涼しさの感じ方の違いを、次のようにまとめた。
 ア にあてはまる言葉を、文中から二字で抜き出さない。また、イに書きなさい。

○「茶の湯」の例

「暑さが遠のく」

水指の蓋代わりの葉の上に打った、日差しが閉じ込められ

た ア を イ で涼しさを感じ

ている。

○「お八つ」の例

「刺々しさが消える」

冷やした丸ごとのスイカを切ったときの、中から逃げてくる冷気に触れることによって、肌で涼しさを感じている。

傍線部⑥「一味違う」とあるが、そう思うようになったのは、筆者のどのような反省からか。「便利」、「他への」の二つの語句を必ず用いて、三十字以内で書きなさい。

【三】 次の【Ⅰ】と【Ⅱ】を読んで、後の問いに答えなさい。

【Ⅰ】

高校の部活でちよつと遅くなった。

帰りの電車に乗ったら、同じ車両の中で父を発見してしまった。少し離れた座席で、うずくまるように肩をすばめて座っていた。

僕は父のところに行って声をかけなかった。父は無口な人で、僕たちは家であまり話をするともなかった。父に声をかけたり話をするのは苦手だった。

何か考えごとをしているのか、足元に視線を落としたまじつとして動かなかった。

次の駅で乗り込んできたおばあさんが、席を探してせわしく車内を見渡した。立っている人は多くなかったが、席は空いていなかった。

電車が発車して、おばあさんはゆっくりと車内を移動した。誰かが席をゆずってくれないかという態度だった。誰も席を立たなかった。みんな眠ったふりをしたり、^aザッシや本から視線を外さなかった。

おばあさんが父の前までやってきた。きつと父も、他の乗客と同じように狸寝入りをして、おばあさんをやりすぎすんじゃないかと思った。

ところが父は、すぐごと逃げるような感じで席を立てしまった。おばあさんと目を合わせることもなく、何もいわずにドアの前に立った。停車しかかっている次の駅で降りるという態度だった。でも父は次の駅で降

りるはずはなかった。家のある駅はまだずっと先だった。そう思ったけど、父は次の駅で降りてしまった。その駅で用事があっただけで、わざわざ席をゆずるために立ったのではなかったのだ。

そうだろうなと思った。恥ずかしがり屋の父は、^bオオゼイの乗客の前でおばさんに席をゆずる^c度胸^cなんかあるはずがなかった。

やがて家のある駅に到着して電車を降りた。びっくりした。^d改札^dへ向かうホームの先を、トボトボという感じで歩いている父の後ろ姿が目に入った。

すぐに僕は納得した。父はおばさんに席をゆずったと思われるのが照れくさくて、それにおばさんから礼をいわれるのが恥ずかしくて、それで降りるふりをして隣の車両に乗りなおしたのだ。

そう思ったとたん、

「父さん！」

と父に声をかけてしまった。

父と同じ電車になることは何度かあったけど、一度も声をかけたことはなかった。話したくなかったので一緒に帰りたくなかったからだ。でもその日は声をかけてしまった。何だか父のことがうれしかった。話しながら一緒に帰りたい気分だった。

父が振り向いた。驚いたようにキョトンとした。

「一緒に帰ろう」

僕はいった。

「ああ」

父がうれしそうに笑った。

(川上健一『電車』による)

【Ⅱ】

広野の花のように

宮澤^{みやざわ} 章二^{しょうじ}

だれの胸の内にも恵まれているはずの
思いやりのある心は海のように豊かだから
ほんの少しの気配りであつてもいいのだ

だれかがひとりぼっちのとき 声をかける
だれかがころんだとき 手をさしだす
そんな ちよつとした親切な動作も

広野の花のように明るくかおる日がある

だれも気づかぬこと に気づくのは尊い
だれもが 気づいていながらやらぬことを
思いきってやってみるのは 更に尊い

ぼくらは歩く道で迷うことが多いけれど
迷っているまに機会は逃げてしまう
ほんの少しの気配りであつてもいいのだ

花のような心を 人に向けてみないか

1 「Ⅰ」の傍線部 a～d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

2 「僕」から見た父親の人物が直接表現されている二字と七字の語句を、
「Ⅰ」からそれぞれ抜き出さないさい。

3 「Ⅰ」において、「僕」の態度が「声をかけなかった」から「声をかけてしまった」と変化したのは、父親に対してある感情を抱いたからである。その感情として最も適切なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 親愛 イ 感傷 ウ 悲哀 エ 同情

4 「Ⅱ」の「歩く道で迷う」が表していることを次のように説明するとき、「 」にあてはまる内容を十五字以内で答えなさい。

日常生活の中で「 」をためらう

5 「Ⅰ」と「Ⅱ」を読み比べ、次のような批評文を書いた。これを読んで、後の問いに答えなさい。

「Ⅰ」の父親は、周囲が眠ったふりをしているなか、席を立った。このような行為が、「Ⅱ」で「a」と評価されていると考えると、「僕」が、父親と「b」と感じて声をかけたことへの理解が深まる。

「Ⅱ」の「広野の花」とは、野原でよく目にする草花である。人々は、ふとしたきっかけでその美しさに気づき、花は「明るくかおる」のである。こう考えると、「Ⅰ」の父親の行動は、「広野の花」のように「c」と言える。

(1) 「a」「b」にあてはまる語句を、「a」には「Ⅱ」から五字以内で、「b」には「Ⅰ」から十字以内で、それぞれ抜き出さないさい。

(2) 「c」にあてはまる内容を、三十字以内で答えなさい。

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「がんばる」こと、「努力」すること。日本の子どもたちは、昔も今もそれを期待され続けてきた。その意味で社会は何ら変化していないかに見える。

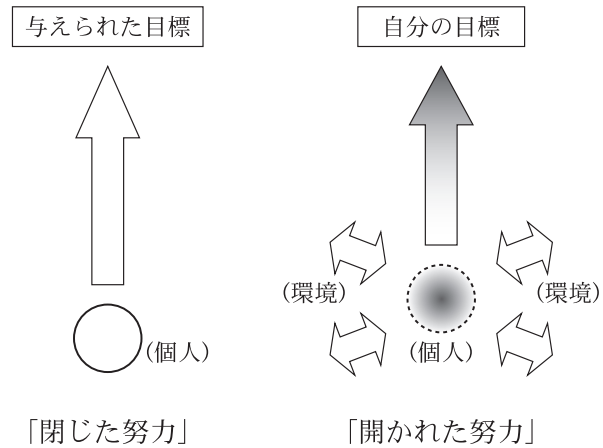
i 実は、子どもたちにとっての「がんばる」ことの内実は、人々に気づかれないうちに変貌^{ぼう}を遂げてきているのではないだろうか。少し前までは、「がんばる」子どもといえば黙々と孤独に、主に机に向かつて刻苦勉励する子どもがイメージされることが多かっただろう。それは単に孤独だけでなく、他者との競い合いをも含意していた。それは個人が周囲の環境から切り離された状態で、自分自身の向上だけを目的として「努力」とするという点で、いわば「閉じた努力」の時代であったといえる。子どもたちの間でそうした側面が後退したことから、子どもの「がんばり」や「努力」が薄れてきたとみる見方もある。たとえばNHK放送文化研究所が実施した意識調査によれば、a「生き方を良いと思う中学生の比率は、一九八二年の六三％から一九八七年五六％、一九九二年五二％、二〇〇二年四四％と一貫して減少し続けている（NHK放送文化研究所編『中学生・高校生の生活と意識調査——楽しい今と不確かな未来』NHK出版、二〇〇三年、四七頁^{ページ}）。

だが、だからといって子どもたちの中で「がんばり」や「努力」が希薄化していると考えるならば、それは子どもにとっての「がんばり」の中身そのものが変化しつつある可能性を見落とす結果になるおそれがある。今、

「がんばり」の内実は ^a ジュウライの「閉じた努力」から、新しい「開かれた努力」へと変質しつつあると考えられるのだ。「閉じた努力」が、受験勉強を典型とするような、与えられた目標に向かって反復練習などを通じて自分自身の単線的な向上を遂げることを意味していたのに対し、ここという「開かれた努力」とは、その時々周囲の状況に応じて自分のあり方や目標を自ら選び取り、それに向かって最大限の力をつくすような行動特性を意味している。それは必ずしも他者を敵対視した上での競争を意味せず、むしろ多くの他者からなる環境の中で自分の位置づけを調整・模索しながら ^b ツラヌくような態度として表れる。

そしてこうした「開かれた努力」は、実は「閉じた努力」よりもはるかに難しく高度な「努力」であるといえる。「閉じた努力」はいわば機械的・自動的な努力であり、自分の周囲の環境への敏感な感受性やその中で自分自身のあり方を決めてゆく決断を必要としないが、「開かれた努力」は常に環境への鋭敏な感受性と ^① 自分自身への反省的な自己規定を必要とする。「閉じた努力」と「開かれた努力」の違いをイメージ的に表現するならば、図のようになるだろう。

図 「閉じた努力」と「開かれた努力」の違い



このような「閉じた努力」から「開かれた努力」への変化が生じているとすれば、それは同時に、「努力」そのものが「行動としての努力」から「能力（あるいは資質）としての努力」へと変化しつつあることを意味している。すなわち、先に述べたような「開かれた努力」は b — どれだけの時間「がんばる」か、何回繰り返し返して練習するか——ではなく、個々人の生きる態度、姿勢のあり方としてしか表れようがないからだ。そして「努力」が「能力」の一部となったとき、それは必然的に、^②万人が等しく手にしうるものではなく、偏った c プンプの形をとるものとなると考えられる。何らかの条件に恵まれて「開かれた努力」を行うことがで

きる者と、そうでない者とが数直線上に並ぶことになると予測されるのだ。そのような事態を d ソウテイしたとき、私たちには次のような問いがつけられることになる。個々の子どもたちを取り巻くどのような条件が、そうした「能力」としての「努力」の水準を決定しているのか。 ii 子どもたちに「開かれた努力」を期待するのであれば、いかなる環境条件を子どもたちに対して整備することが有効であり必要なのか。子どもたちに対して単に「がんばれ！」という圧力をかけるだけでは、「能力」としての「開かれた努力」は形成されないだろう。それゆえ、「開かれた努力」がどのように形成されているのかについて、冷静で客観的な検討を加える必要がある。

（本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』）

1 傍線部 a～d のカタカナを漢字に直しなさい。

2 文中の i、ii に入ることばの組み合わせとして、最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|------|----|------|
| ア | i | だが | ii | もはや |
| イ | i | しかし | ii | もし |
| ウ | i | それとも | ii | しよせん |
| エ | i | だから | ii | まさか |

3 文中の a にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 他人や世の中のためにがんばる
- イ 自分の得意分野にのみ努力する
- ウ 他人に負けないようにがんばる
- エ 周囲の大人に言われて努力する

4 傍線部①「自分自身への反省的な自己規定」とは、どのようにすることか。文中の言葉を用いて、四十字以内で書きなさい。

5 次の文は、図における（個人）について説明したものである。

A、B にあてはまる言葉を、文中からそれぞれ十
五字以内で抜き出さない。

「閉じた努力」の（個人）は、A にある個人を表
しており、「開かれた努力」の（個人）は、B にいる
個人を表している。

6 文中の b にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ユニークな発想の源
- イ 計量不能な能力の質
- ウ 半強制的な伝統の力
- エ 計測可能な行動の量

7 本文におけるⅠ「閉じた努力」、Ⅱ「開かれた努力」の具体例の組み合わせとして、最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア Ⅰ 朝の会の後、クラス全員が一斉に五分間の四則計算ドリルを行う。

Ⅱ クラスでグループを作って、協力して理科の自由研究に取り組む。

イ Ⅰ 海外で仕事をするため、英検一級取得に向けて英会話教室に通う。

Ⅱ レギュラーの地位を獲得するため、下校後でも練習を怠らない。

ウ Ⅰ 「まちおこし」を課題研究のテーマに設定し、現地で調査を行う。

Ⅱ 志望校に合格するために、毎日四時間以上机に向かって勉強する。

エ Ⅰ 地球温暖化への影響を考慮し、自家用車をやめて電車通勤する。

Ⅱ 近所の人たちと地域の美化に取り組み、定期的に清掃活動を行う。

8 傍線部②「万人が等しく手にしうるものではなく」とあるが、筆者

は何の違いによって、そのようになると考えているか。文中から四字で抜き出さない。

9 本文の論の進め方や内容を説明したものとして、最も適当なものを、

次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 二つの「努力」の相違について具体例を多用して説明すること
で、従来の努力から新しい努力への移行を促している。

イ 二つの「努力」の是非について経験的に説明することで、読者
が新しい努力の長所を受け入れられるようにしている。

ウ 「努力」の変質を統計や図を用いて対比的に説明した上で、新
しい努力を可能とする条件について吟味を訴えている。

エ 「努力」の変化を時間の経過に沿って繰り返し説明した上で、
従来の努力を時代にあわないものとして批判している。

【五】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

陸績^{りくせき}、六歳の時、袁術^{えんじゆつ}といふ人の所へ行き侍り^{はべ}。袁術、陸績がために、菓子^{たちばな}に橘^{いだ}を出せり。陸績、これを三つ取りて、袖^{そで}に入れて帰るとて、袁術に礼をいたすとて、袂^{たもと}より落せり。袁術、これを見て、「^①陸績殿は、幼^{おとこ}き人に似あはぬこと。」と言ひ侍りければ、「あまりに見事なるほどに、家に帰り、母に与へんためなり。」と申し侍り。袁術、これを聞きて、「幼き心^③にかやうの心づけ、古今^{ここん}まれなり。」とほめたるとなり。さてこそ、天下の人、かれが孝行なることを知りたるとなり。
(世の人々)

(『御伽草子集』による)

(注) 陸績、袁術……ともに中国の人の名前。

橘……みかんの一種。

袖……衣服の両腕をおおう部分。

袂……袖の下の袋状になった部分。

1 傍線部①「袂より落せり」とありますが、何を落としたのですか、書きなさい。

2 傍線部②「陸績殿は、幼き人に似あはぬこと」とありますが、袁術は、陸績のどのような行動に対してこう言ったのですか、書きなさい。

3 傍線部③「かやう」を現代仮名遣いで書きなさい。

4 本文の内容として最も適切なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 袁術は、陸績のとった行動の意味を知り、ほめたことによって、優れた教育者として世の人々に知られるようになった。

イ 袁術は、幼い陸績におぎの仕方を教えたことによって、礼儀を重んじる人として世の人々に知られるようになった。

ウ 陸績は、橘を持って帰りたいと袁術に願ひ出たことによって、勇気のある子として世の人々に知られるようになった。

エ 陸績は、母のためにとった行動を袁術にほめられたことによって、親しいの子として世の人々に知られるようになった。

六

あなたは、将来、社会に出たときにどんなことを大切にしたいと思いますか。次のA～Eから一つ選び、後の〈条件〉にしたがって、理由を書きなさい。

- A 礼儀を重んじマナーを守ること。
- B 趣味や特技を生かすこと。
- C 書物や他の人から学ぶこと。
- D 人々との交流を深めること。
- E 世の中や人々の役に立つこと。

《条件》

- 1 解答用紙の「記号」の欄に、A～Eの中から選んだ記号を一つ記入すること。
 - 2 原稿用紙の正しい使い方に従って、一六〇字以上、二〇〇字以内で書くこと。
 - 3 題名などは書かずに、本文から書き始めること。
-